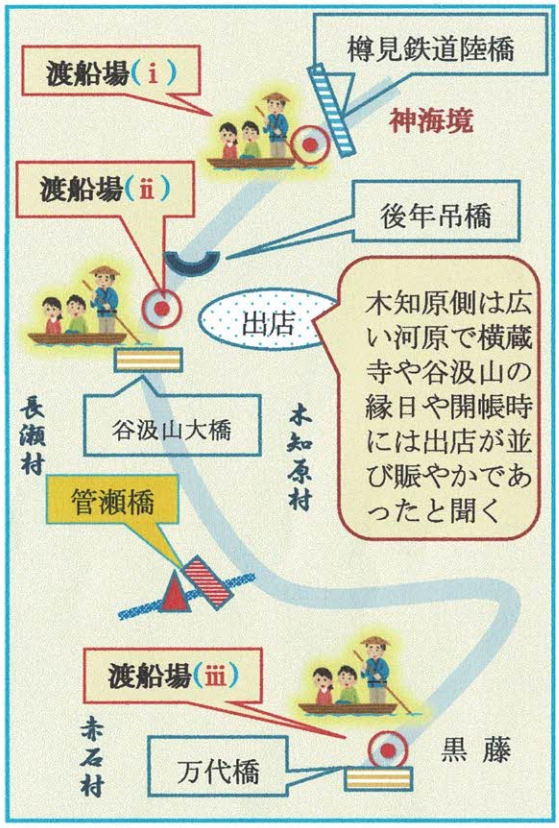
# 木知原の今昔！

3号：4・12・23

《渡船場常夜灯》

## 木知原に3ヶ所の渡船場




### 最初の渡船場(ⅰ)は

✎天和元年(1681年)5代将軍綱吉の時代に上岩崎と上長瀬との間に開業。

・地蔵尊の道案内に「善光寺71里」「谷汲へ三十丁」とあり巡礼者で賑わったことと思う。(長瀬に巡礼道あり)

・この渡船場を江戸末期の万延元年(1860年)に800人近い水戸天狗党が利用したことを思うと歴史を感じる渡船場である。

♥岩崎で売られていた「おだいもち」が有名であった。

### 2番目の渡船場(ⅱ)は、

✎明治8年(1875年)に下岩崎と天神堂(下長瀬・旧郵便局辺り)との間に開業。

・川幅が40間とあるから60～70mの渡幅であった。

・明治14年の渡し賃が「人－0.3銭・長持－1.2銭・牛馬－0.6銭」とある。

♥谷汲山大橋下の道標「谷汲山道・根尾越前道」は明治28年(1895年)に寄進とある。新しい感もするが渡しの時代である。

## 村の様相を一変させた3番目の渡船場

3番目の渡船場(ⅲ)は、明治10年？現在の万代橋付近(黒藤・赤石間)に開業。

✎この渡船場は中仙道(南部)方面からの旅人や巡礼者にとっては谷汲や横蔵寺参拝への近道となった。そのため木知原を通る人が少なくなり、多くの仮店舗が閉店し帰郷するようになったので村が急に寂しくなったそうである。

♥下長瀬村では赤石との間で渡船客の奪い合いが起き、下長瀬村の船頭が赤石境にかかる管瀬橋を壊したとの記録が残されているほどである。(谷汲村史)

渡船場の営業権は3か所とも赤石と長瀬村が持っていた。川が対岸側を流れていたからであるが知らなかった❣

**渡船場**とは「とせんば・わたしば・わたし」と読む、別名渡船場を「津渡(しんと)」とも言う。

✍世情が落ち着いた三代将軍家光の頃から各地に開業が許され他国との往来が比較的自由になった。暮らしも落ち着いたのでしょうか巡礼ブームもこの頃から始まったようである。

✎木知原村は静かな農村であったが、渡船場が開業されると5街道が交差する要地であったことから人や物の往来が一気に増えてきた。また多くの商店が立ち並ぶなど今では想像もつかない賑わいを見せることとなった。

しかし、3番目の開業は大きな痛手となったことでしょう。現代もよくあるケースですかね～。

良いお年を・・　横山